

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」

放課後子供教室の取組事例

「公民館での放課後子ども教室」(岩手県 住田町)

取組の概要や経緯

子どもたちが安心して過ごすことのできる放課後の居場所を確保し、学習支援等により放課後を有意義に過ごす環境を整えることで、地域コミュニティの活性化を図ることを目的に放課後子ども教室を開催している。

内容

学習指導者が常時宿題や学習の支援をしているほか、農業体験、ケーキ作り体験、クップ教室、折り紙・工作教室、昆虫さがし、ミニスポーツ、川あそび、散歩、雪あそびなど、体験活動も実施している。



ポイント

- ・公民館で開催することで、学習指導者だけでなく公民館職員や地域おこし協力隊（各公民館に配置）も子どもたちの学習支援や活動補助をすることができている。
- ・地域の拠点である公民館で開催することで、子どもたちが地域住民の方と関わりを持つ機会が多くなっている。

成果

アンケート調査において、「そう思う」「かなりそう思う」と肯定的な回答をした割合は、右記の表のとおりいずれも半数以上となっていることから、多くの利用者等にとって「有意義な場所」となっており、放課後子ども教室の実施が地域コミュニティの活性化にもつながっている。

アンケート調査結果(肯定的な回答割合: %)		
項目	H27	H28
学習のやり方が分かってきた	56	63
本を読む時間が増えてきた	52	57
学習する時間が増えてきた	51	52
住んでいる地域が好きになってきた	60	60
友達が増えてきた	65	63
大人と話すのが好きになってきた	56	63
地域のつながりが深まった(大人)	54	59
大人自身にやりがいがある(大人)	61	71

今後の方向性

- ・放課後子ども教室を、子どもたちや保護者、地域にとってより有意義な場所にしていくため、今まで以上に子どもたちと地域住民が関わりを持てるような事業や体制づくりが必要。
- ・しばしば児童の問題行動も見られることから、学習指導者の対処方法等の助言や心理的負担軽減のため心理療法士の訪問を実施しており、今後も継続が必要。